

## 第2学年 英語科 学習指導案

日 時	平成19年10月12日(金)公開授業2
学 級	2年D組(男子19人 女子15人 計34人)
場 所	2年D組教室 2年C組教室
指導者	千葉 正(2C教室) 千葉希見(2D教室)

### 1. 単元名 Unit 5 A park or a Parking Area?

#### 2. 単元について

##### (1) 教材観

駅前に置かれた自転車が倒れて女の子がけがをする事故をきっかけに、公園に駐輪場をつくるべきかどうかの議論が新聞で紹介される内容である。Reading for Communication は接続詞を用いた長い文が多く、生徒は文の構造の理解に難しさを感じるものと思われる。また、文法事項として従属接続詞 if, that, when, because が連続して出ており、既習の接続詞 and, so, but と比較し、関連付けて指導したい。

##### (2) 生徒観

学習にしっかり取り組む生徒が多く、毎日の授業に真剣に参加しようとしている。音読やノートのまとめも意欲的に行ってきたが、積極的に表現することに弱さがある。一部には既習事項の定着が不十分で、苦手意識をもつ生徒もいる。既習内容の確認をしながら、機会をつくって個に応じた指導をし、一人一人の力をもっと伸ばしていきたい。

##### (3) 指導観

「個に応じた手だて」について

2学年は、週3時間のうち2時間に二人の教師が配置されている。二人の教師が担当する授業時間にはTT指導をすることが多く、時機をみて時々少人数指導を取り入れてきた。本単元では、生活班を単位に学級を二つに分けた少人数指導と、教師一人による一斉指導を交互に行う指導形態をとる。少人数授業の場合には、小さい集団で落ち着いて学習できる利点を生かし、生徒個々の活動の機会を増やし、個別の関わりを多くしていきたい。

また、ペアやグループの活動のなかで個人が生かされる場をつくりたい。この単元では、従属接続詞を用いて文と文をつなぐといふかなり困難な課題に取り組むため、個人差が大きく出ることが考えられる。グループの活用を工夫したい。

「評価の生かし方」について

生徒同士の活動のようすや自己評価の結果をみて、定着度を確認し、指導をおこなう。

### 3. 単元の目標

#### (1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

対話文や新聞記事などの内容を理解しようとする。

自分の考えが相手にはっきり伝わるように、言語活動に積極的に取り組む。

#### (2) 表現の能力

if, that, when, because 節を用いて表現することができる。

#### (3) 理解の能力

新聞記事を読んで、その内容を理解することができる。

#### (4) 言語や文化についての知識・理解

if, that, when, because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、正しく使うことができる。

#### 4. 単元の指導計画

- ( 1 ) Starting Out           1 時間
- ( 2 ) Dialog                 1 時間
- ( 3 ) Reading for Communication 1     2 時間
- ( 4 ) Reading for Communication 2     2 時間 ( 本時 2 / 2 )
- ( 5 ) まとめ Listening Plus 5           1 時間

#### 5. 単元の評価規準

単元名	Unit 5 A Park or a Parking Area ?
単元の目標	新聞記事を読んで、その内容を理解することができる。 if, that, when, because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。
主な学習活動	対話文、新聞記事を読み、理解する。 if, that, when, because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現する。
評価規準	対話文や新聞記事などの内容を理解しようとする。( 関 ) 自分の考えが相手にはっきり伝わるように、言語活動に積極的に取り組む。( 関 ) if, that, when, because 節を用いて表現することができる。( 表 ) 対話文や新聞記事などを聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。( 理 ) if, that, when, because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、正しく使うことができる。( 言 )
評価の方法	観察、ワークシート、自己評価

#### 6. 本時の指導

##### ( 1 ) 目標

because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、表現することができる。

##### ( 2 ) 具体の評価規準

具体的評価規準 評価の観点	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 努力を要する生徒 への手だて
表現の能力	because 節を用い、自分の発想もまじえて文章にし、発表することができる。	because 節を用い、自分の考えをまとめ、書くことができる。	机間巡視をして、個別に指導する。
言語や文化についての知識・理解	because 節を用いた文の形・意味・用法を正確に理解し、適切に使うことができる。	because 節を用いた文の形・意味・用法を理解し、正しく使うことができる。	グループの中の教え合いをもとに、困難な点を解決させる。

## (3) 展開

: 評価 : 手だて

段階	指導内容	生徒の学習活動	留意事項と評価・手だて
導入 10分	1 あいさつ 2 warm-up 3 前時の復習	2～3人で Q and A の活動をする。(1年の基本文を使って)  新出単語、本文を読む。 投書欄の意見を思い出す。 (市の決定に賛成か、反対か)	どの生徒も活動に参加できるようにする。 下位の生徒への支援。
展開 35分	4 学習課題		
	「理由」を表わす接続詞を使うことができるようにしましょう。		
	5 基本文の確認 6 because を用いた文をつくる例題に取り組ませる。 7 練習問題を解かせる。 8 課題作文に取り組ませる。	前時の学習をもとに確かめる。 I'm against the plan because we need our parks.  例題の文をつくる。(全体) I can't come / I'm busy I stayed home / it rained  練習問題を解く。(個人)  解いた結果をお互いに確かめる。(グループ)  好きな季節とその理由を英語で表わす。(個人、グループ)	主節と従属節の関係に気づかせる。  because 節を用いた文を理解し、表現できる。  Cの生徒への手だて 主節と従属節の関係を日本語をもとに考えさせる。  Bの生徒への手だて 接続詞の位置に注意させる。  Aの生徒への手だて 課題の文をできるだけ多く書かせる。
終末 5分	9 学習したことの確認 10 自己評価 11 あいさつ	接続詞を使った文の語順を確かめる。  学習を振り返り、自己評価をする。	2～3人に自己評価の感想を発表させる。